

文化財保存活用地域計画から見る令和の都太宰府

問い合わせ 文化財課保護活用係(内線473)



<目指す方向>
世界に冠たる
令和の都
太宰府

行政

文化財保存活用地域計画(R4)

- 「令和発祥の都太宰府梅プロジェクト」「史跡100年プロジェクト」(R3)
- 「THE REIWAプロジェクト」「時の旅人プロジェクト」日本遺産広域化認定(R2)
- 「THE DAZAIFUプロジェクト」(R1)

地域コミュニティ

令和改元(H31/R1) 令和発祥の都となる

- 日本遺産認定(H27)
- 太宰府市景観・市民遺産会議発足(H22)
- 歴史文化基本構想策定・太宰府市民遺産制度の開始(H22)

文化遺産からはじまるまちづくり(H17)

- 文化財保存活用計画策定・九州国立博物館開館(H17)
- 太宰府市文化ふれあい館開館(H8)
- 九州国立博物館設置促進財団設立(H4)
- 「都府楼」創刊(S61)
- 史跡解説員発足(S60)
- 大宰府展示館開館(S55)
- 九州歴史資料館開館(S48)
- (財)古都太宰府を守る会発足(S49)
- 遺跡の発掘学術調査開始(S43)
- 史跡地公有化の開始(S39)
- 秋思祭はじまる(S42)
- 大宰府跡、水城跡、大野城跡の特別史跡指定(S28)
- 「郷土読本」刊行(S12)
- 観世音寺宝蔵の開館(S34)
- 大宰府跡、水城跡の史跡指定(T10)
- 政庁跡で時の記念日始まる(T10)
- 「大宰府」碑建立(T3)
- 江藤正澄・西高辻信庵・吉嗣拜山らの鎮西博物館建設計画(M26)
- 「大宰府跡」碑建立(M13)
- 太宰府博覧会(M6)
- 大宰府の顕彰碑「都府楼古趾」建立(M4)
- 黒田藩による大宰府の研究
- 大宰府政庁が置かれる

(※M:明治、T:大正、S:昭和、H:平成、R:令和)

行政と地域、これまでの歩み

【計画の対象】

本計画では、市民や地域、市が将来の世代に伝えていきたいモノやコトを「文化遺産」、文化財保護法に規定される文化的所産を「文化財」と呼び、両者を保存活用の対象とします。

【計画期間】

- ・ **基本的措置**
基本的に期限を定めずに継続的に取り組んでいく措置で、長期的・継続的に実施します。
- ・ **重点的措置**
基本的措置の具体化や効果を高めるため、10年間の期限を定めて重点的かつ戦略的に実施します。

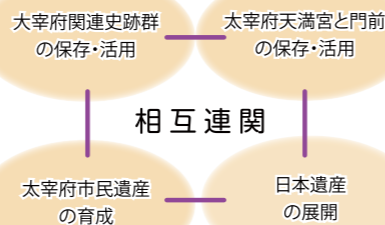
これから
地域コミュニティとの連携、国・県・市の関係部署との連携、関係自治体との広域連携をより一層深め、時に各分野の専門家の助言を得つつ、社会総がかりで文化遺産の保存・活用を支える取り組みを推進していきます。

<目指す方向>

世界に冠たる
令和の都
太宰府

官民連携による文化遺産の保存と先進的多用途活用の推進
行政 地域コミュニティ

<重点的措置>



太宰府市文化財保存活用地域計画を活かして
天平の世、大宰帥大伴旅人により催された梅花の宴の情景をうたった万葉集を典拠として、元号「令和」は誕生しました。太宰府市は令和発祥の地として注目を集め、この地が古より我が国の政治・外交・防衛・交易・文化の要衝であり、アジア、世界と日本を結ぶ窓口であった歴史的意義に改めて脚光が当たりました。一方、地域の一定部分を占める史跡地は規制が多く開発が抑制される上に、維持保存費用が市の財政を圧迫しているという市民感情もかねてより存在していました。そうしたなか、規制緩和を活かした令和発祥の都太宰府へ。

府「梅」プロジェクトや日本遺産の大宰府的広域化など税収経済効果を高める取組を実践して参りました。こうした意欲的取組をさらに進め、官民連携による文化遺産の保存と先進的多用途活用の推進の好循環を図るべく策定したこの「太宰府市文化財保存活用地域計画」を実行に移し、住まう人も訪れる人もともに誇りを抱き、慶びを分かち合える世界に冠たる令和の都太宰府への昇華に向け、持てる力を出し尽くして参ります。



太宰府市長
楠田大蔵

大宰府関連史跡群の保存・活用

ふるさと納税や内閣府の地方分権改革推進提案の制度を活用し、時の旅人プロジェクトや史跡100年プロジェクト、令和発祥の都太宰府「梅」プロジェクト、さらには回遊性を持たせた観光ルート推進など史跡をはじめ関係する文化遺産の先進的多用途活用を意識した令和の都太宰府としての意欲的な取り組みを矢継ぎ早に行っています。

また、史跡地の魅力を高めて来訪者を増やし経済税収効果を高めるべく、2022年10月～12月には、市内の史跡地で軽食やお菓子などを移動販売する実証実験を行いました。小学校では地元の史跡について学び、子ども史跡解説員として学んだことを発表しています。

官民連携による文化遺産の保存と先進的多用途活用の推進の好循環を図るべく、今後もこうした意欲的な取り組みをさらに進めていきます。



客館跡でのフードトラック出店の様子



子ども史跡解説の様子



令和発祥の都太宰府「梅」プロジェクト製品

太宰府市民遺産の育成

太宰府市民遺産第16号の宝満山のヒキガエル。宝満山を毎年5月下旬～7月初旬、およそ1cmのヒキガエルの子どもが山頂へ登ります。麓の池で産まれたあと、1カ月かけて登る途中には、車道や側溝、天敵の存在などさまざまな難所があります。

この現象の詳しい理由はわかっていませんが、登山者の靴底についたカエルの匂いを道しるべに登っていると考えられています。

地元の宝満山ヒキガエルを守る会によって、大切に育てられています。こうした取り組みがあって、市民遺産は未来へ語り継がれます。



育成団体「宝満山ヒキガエルを守る会」提供

市民遺産とは 市民が未来の太宰府に残したいと思う太宰府の物語と、関連する文化遺産と、伝える活動とを合わせて「太宰府市民遺産」として太宰府市景観・市民遺産会議が認定するものです。現在、16件の太宰府市民遺産が認定され、各育成団体によって守り育てる活動が行われています。

日本遺産の展開

大宰府の歴史文化を物語る「古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」が日本遺産に認定されています。令和2年には、地理的・歴史的・文化的に関係が深い筑紫野市、春日市、大野城市、那珂川市、宇美町、佐賀県基山町を加えた広域型に変更し、大宰府的な観点で、連携し魅力を発信しています。

今後もさらに官民連携や近隣市町との連携を深め、市域を越えて来訪者が回遊する仕組みをつくることで、地域活性化や関係人口の拡大をめざします。



市内の日本遺産を歩いて巡る「日本遺産『西の都』ふれあいウォーク」主催：(一社)太宰府観光協会



太宰府天満宮と門前の保存・活用

太宰府天満宮門前には歴史的な建造物が多くあり、訪れる人は歴史情緒を感じることが出来ます。こうした町並みを守っていくために、保存修理事業が行われています。

門前にある三条・連歌屋・馬場・大町・新町・五条と太宰府天満宮、筑紫女学園大学、本市で構成する太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会で話し合い、基準を決定しています。保存修理に対しては、市が助成をしています。

歴史と文化を活かして海外からの観光客にも親しまれる空間を形成し、滞在型観光を充実させます。

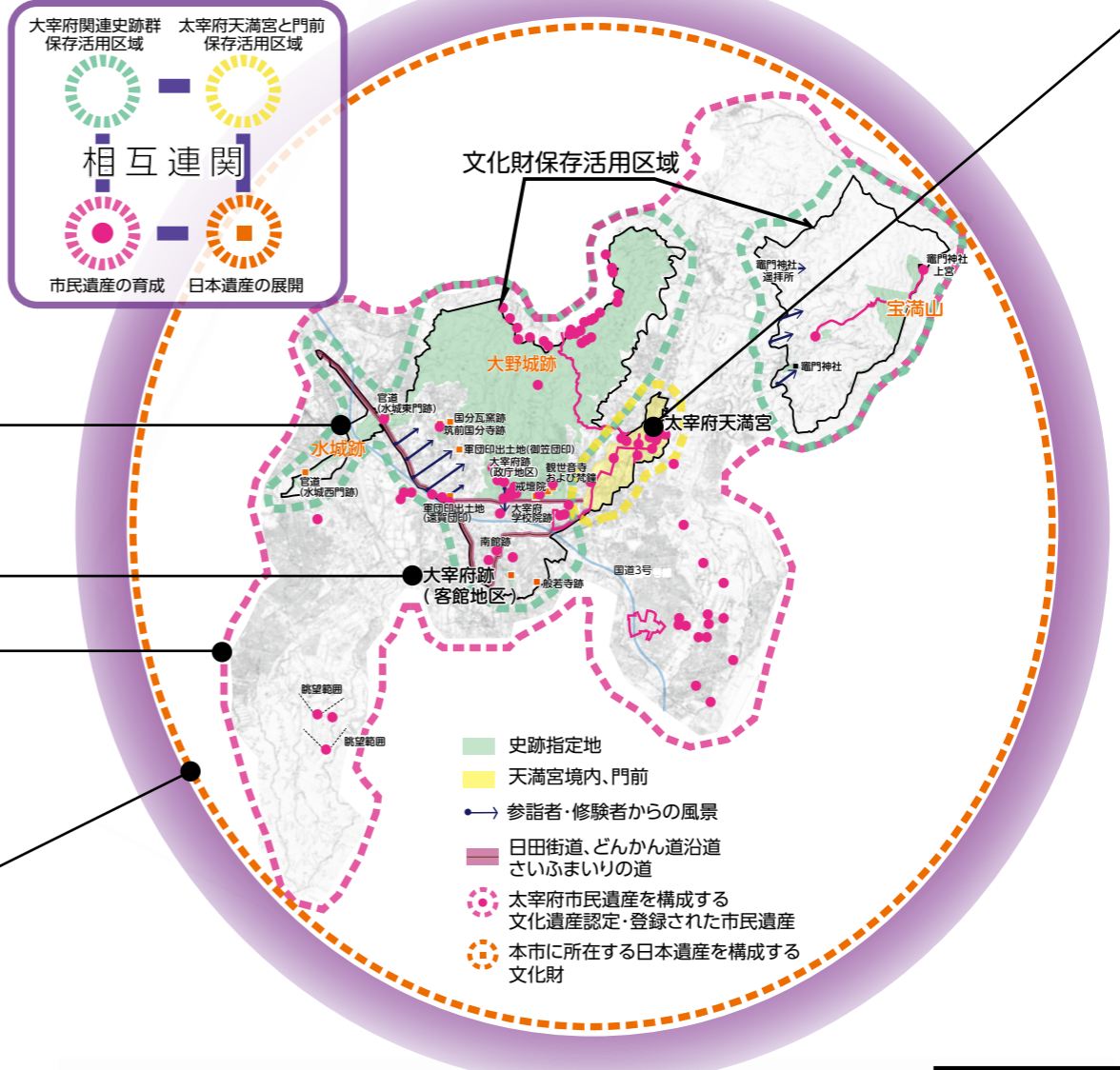


保存修理をした甘木屋



歴史的建造物と
美化化した小鳥居小路

門前の景観。歴史情緒をのこしながら新しく生まれ変わります。



太宰府市全域で見える